

シリーズ南城物語 4 浅野誠 2012年6月作成

南城で暮らす

シマの暮らし

私が住む南城市玉城の中山区を中心とする暮らしの話だ。

目次

a. 地域の話題	2
b. 人々・生活風景	8
c. 食・食事会	15
d. 区の会議・仕事	18
e. 共同作業	29
f. 行事	33
g. 自然・景観	42
h. 石獅子	45

対岸の奥武島漁港から中山を見る。
後の丘の一番高い所がタマグスク。



a . 地域の話題

数十年前の中山の写真

私達が2004年から住んでいるのは、南城市玉城字中山。その中山の数十年前を写した絵ハガキを、友人が骨董市で掘り出してきた。

「沖縄南部の農村風景 (Seacoast of farming village seen in southern Okinawa)」という説明書きがついている。

中山バス停から、富里よりに国道ヘアピンカーブを200メートルぐらいいったところからの写真だ。地形は、百名の丘が、採石のため今は少しくぼんでいる以外、変化なし。

今の国道331号線、戦後は「軍道」とよばれていたと聞くが、今と同じ位置にある。

中山の家々が茅葺になっているので、1950年代かそれ以前の撮影だろう。耕作地は、イネなのかサトウキビなのか、よくわからない。

このあたりは、1960年代半ばまでは美田として有名だったと聞く。私の現在の家あたりは森になっている。絵の手前の畑は、今は雑草が生い茂っている。

戦前戦後史は、最近戦争体験についての掘り起こしがすすんでいるが、農村生活生産については、あまり手がつけられていない。当時の中心の方々が元気なうちには、と思う。



中山のマーク

稲穂とサトウキビ。制作者と制作年は知らない。調べなくてはと思う。集落センターのステージ前に発見



※集落センターの通称は公民館。字ごとに公民館はあるが、建設費がどこから出たかで、名称が異なるようだ。中山の場合は、当時の農林省の予算を主体として、1980年ごろに建設されたようだ。

30数年前の中山釣り事情

近所の方々の集まりをよくする。飲み会になることも多い。

ある時は、卓球仲間からいただいた「とりたてのタコ」を食べながらのユンタクだった。ふだん購入してくるタコとは大違いである。長年、タコに親しんでいる人も、「すごい」との声。すぐになくなった。

そんな話が発展して、中山釣り事情の話しになった。合唱団メンバーと指導者の二人は幼なじみだが、小学校時代の話だから、1970年代前半のことだろう。

二人でリーフの先まで出て、釣りをする。50匹くらい釣ったそうだ。餌がなくなると、釣った魚を切って、餌にしたそうだ。餌のつमोरのサンマが太陽で熱せられたので、そのまま「塩焼き」のつमोरで食べたそうだ。

そうこうするうちに、満潮になって、歩いてもどれなくなかったので、竿を口にくわえ、釣った魚を腰につけて、泳いで帰ってきたとのことだ。

今でもできそうだが、それほど元気のある「野蛮？」な小学生はいないだろう。別の機会には、朝までタコ取りをして、運びきれないで困っていると、心配した親が迎えに来たそうだ。



中山・我が家・タマグスク

海岸沿い道路から撮影

やや右手の赤いブーゲンビリアのある家が我が家

我が家の真上がタマグスク

中山の高齢者増える

毎年、5月末に開かれる中山の豊年祭は、「敬老祝」も兼ねているので、数え65歳以上の名簿が配布される。2012年からは、70歳以上に変更される。

2004年9月に住み始めた私たちは、2005年から参加しているので、2005年の名簿から保存している。2005年は、66名だった数え65歳

以上が、2011年には、76名に増えている。私は、年齢順にいうと、72番目だ。70代が35名いるが、60代は65才未満をあわせても27名と少ない。戦争の影響だろう。とくに1945年生まれと1946年生まれは1名ずつしかいない。

集落人口は、2005年220人、2011年224人、ちなみに1998年は226人だから、だいたい同じようなものだ。男女別でいうと、2005年が男107名女113名、2011年が男101名女123名で、女が多い。

若いのが減っているかという、そうとは限らない。10代は23名から30名とふえているし、とくに小中学生が増えている。最近、子どもたちに活気がみられるのはうれしい。

南城市玉城『當山誌』

當山の方からいただく。2008年11月に発刊された、B5版456ページという大きなものだ。30名あまりの編集委員が数年かけて作成にあたったという。

興味深い点が多かったが、なんといっても、當山で生活なさってきた方々が直接語り、記した個所が大変印象的だ。わけても、戦争時のものが強烈である。沖縄における字誌の多くがもっているものと同様である。また、農業をはじめとする生活体験の記録も印象的である。

本書のなかでも書かれているが、これをこの先いかに継承発展させていくか、ということが期待される。その点にかかわっていうと、字をいかにつくってきたのか、今後、いかにつくっていくのか、というテーマに焦点化した作業が今後求められてくるだろう。たとえば、戦時記録にあらわれているような緊張と

は異なる形であるにしろ、字の継承発展のなかには、緊張感あふれる数々の豊かな歴史があるはずである。それをになってきた人々の「語り」「思い」を残していく、あるいは改めて「決意」「思い」を語ることを、こうしたものに反映していくことは重要な意味をなすだろう。それは、私のいう「地域づくりと人生づくり」とが重なるところに存在するといえよう。

その点でいうと、こうした書籍編集にあたって世代間交流をいかにするか、という視点が求められよう。字での歴史が浅い若者たちが、経験の深い先輩たちと交流・意見交換するなかで編集するというものがあったとしてもよいだろう。

また、男系性が強いこれまでの歴史のなかでは、生まれてずっと同じ字に住んでいるという意味では、女性は傍系になってしまう傾向が強い。その点で、女性参加をいかにするか、ということも重要な問題になるろう。

そしてまた、戦前から多少はみられるが、1960年代以降著しい移出移入の拡大のなかで、現在字に住んでいない人、新たに字に住みはじめた人が、こうしたものにどのように参加していくのか、ということもある。

また、こうした膨大な資料をいかに分析検討して、今後に向けて何を引き出していくのか、という課題も存在している。資料のなかには、そこまで書いていいのかと思えるようなところもあるが、そうした貴重な資料から何を引き出していくのか、という課題をどうすすめていくのだろうか。

私も玉城に移入してきて数年。字ごとの特徴が少しずつ見えてきた。たとえば第一尚氏の系統を引き、またエネルギーが豊富で動きが多い当山には感心することが多い。こうした字ごとの個性がどういう意味をもつのか、また今後どう展開していくのか。そうしたことにも関心をもつ。町村合併のなかで、地域に新しい局面が生まれつつあるが、それとこれまでの歴史とがどうからむのか、という問題もあろう。

近年、各地で字誌の発刊が続いている。相当な財政がないとできないので、中山では難しいだろう。しかし、なんらかの形で、中山の記録が残るようになることを期待したい。

数百年以上前の、中山創設時期の話。イノーや美田の話なども。昔話と「遺跡」も。

戦前には、移民の話もあるだろう。戦争期のこと。農業などの戦後復興。移民も含めて県内外への移動の話。現在と将来への期待。

b. 人々・生活風景

捨て犬・捨て猫

隣人の男性二人が、捨て犬を追い払うのに苦労している。白い中型犬だという。私は気付かなかったが、恵美子を見たことがあるという。その話を聞いた後、私は黒い捨て犬を見た。

捨て犬があちこち歩くので、それを見た飼い犬が吠える。夜中がひどい、とのことだ。最近は見かけないが、捨て猫も多い。特に海岸の防風林あたりは多い。赤ちゃんをともなう「家族猫」が多い。海岸あたりで子猫に付きまとわれて困ったこともある。

おそらく、遠くから来て捨てていくのだろう。それへの対応に地元の人困っていることを知らずに捨てていくのだろう。拾われて飼われることは滅多にない。ヤンバルでは、捨て猫が保護動物を追いやっている報道が行われているが、このあたりでも迷惑千万である。

飼い主は、最後まで見届けて欲しいものだ。

散歩で出会った捨て犬？

まわりついて離れない。首輪はないが、紐は付いている。散歩中の人の犬にからむので、私とその犬を抑えて、先に行ってもらった。

迷い犬かもしれないので、心当たりに尋ねるが、不明。

困ったものだ。動物愛護センターが引き取り有料化したことの影響か。



引き取る気はありませんよと、その犬に意思表示して、戻ってもらった。私の意思表示より隣人の意思表示がうまかった。

すごすごと、どこかへ行く。

許せないゴーヤ泥棒

近隣の農家が、収穫直前のゴーヤをごっそり盗まれた。真昼間、畑に入って、一本一本とるといふ、大胆さである。値が高い時に、大量にだから、その方のショックは大きい。畑のあちこちに泥棒への警告の看板が立てられているが、実際の話をも身近な人から聞くのは初めてだ。なんとも悲しい話だ。

ビンガー通り案内

中山集落の中で、私たちの近隣10軒余りの家々のなかを通る道を「ビンガー通り」といふ。というよりも、皆さんでそう名付けた。

その通りの下（南）からの入り口に、案内板をたてようという話が以前からあった。

隣人が格好の材料を海岸から拾ってきたので、恵美子を書いてたてた。楽しいものだ。しかし、3年余りの「活躍」の後、大雨の時に流された。また、いいものがいつかできるだろう。と期待する。





若者、海へびを釣る

奥武島の龍宮から帰り道、橋のたもとで若者数人が釣りをしている。長いものを釣っていたので、太刀魚のようなものかと思ったが、近づくと、なんと海へびではないか。黄色と黒のシマシマのものだ。

若者は、頭を靴で押さえている。

「猛毒だぞ」と声をかけると、「知っているよ。からあげにすると美味しいよ。でも、あとで海に返すよ」と答える。

ハブより毒性が強い。若者の靴が頭から離れて、動きまわる。若者は怖いものの知らずだ。

佐敷富祖崎のイルミネーション

2008年12月の話。「祝百年」とあるから、集落百年なのだろう。すごく大きい。公民館とそのまわり全体をイルミネーションにしている感じ。





尚巴志の文字が夜空に浮かぶ

尚巴志マラソンに向けて、佐敷の丘に。

小学校遠足風景

我が家の前の、新原と中山を結ぶ道路を子どもたちが歩く。玉城小学校の春の遠足だろう、と推測する。新原あたりか、ヤハラヅカサあたりまでの遠足だろう。弁当を食べて、学校へ戻る途中だろう。

バス利用が多いこのごろにあって、まさに懐かしい「歩く」遠足風景だ。

我が家ベランダから写す。



玉城バス停、隣のバス停表示が逆

ユーモアあふれる、としよう。乗降客は少ないし、終点間近いので、これで間違える人はいないだろう。



この表示が出されてから、どのぐらいたっているだろう。2, 3年間以上だろう。40年前の沖縄のバス停表示と比べれば、ずっといいのだが。当時は、コンクリートの棒に「バス停」とか「バスのりば」という表示だけで、時刻表どころか、どこ行きのバスがくるのか全くわからないバス停もあった。「間引き運転」もしばしばで、時刻表をあてにしているという時代だった。

このブログ記事を掲載して、1年後ほどに正しい指示に直された。

興南の我喜屋監督は隣の玉城区出身

玉城区の入り口に、大きな幕が張られた。



うみかぜホースファーム



我が家から車で10分の親慶原

写真は三頭のなかのユウナさん

ヨナグニ馬

カイトセーリングで にぎわう百名ビーチ

いつもは人がほとんどいない海岸
風がよく好天気なので、多いのだろう



隣はパラグライダー

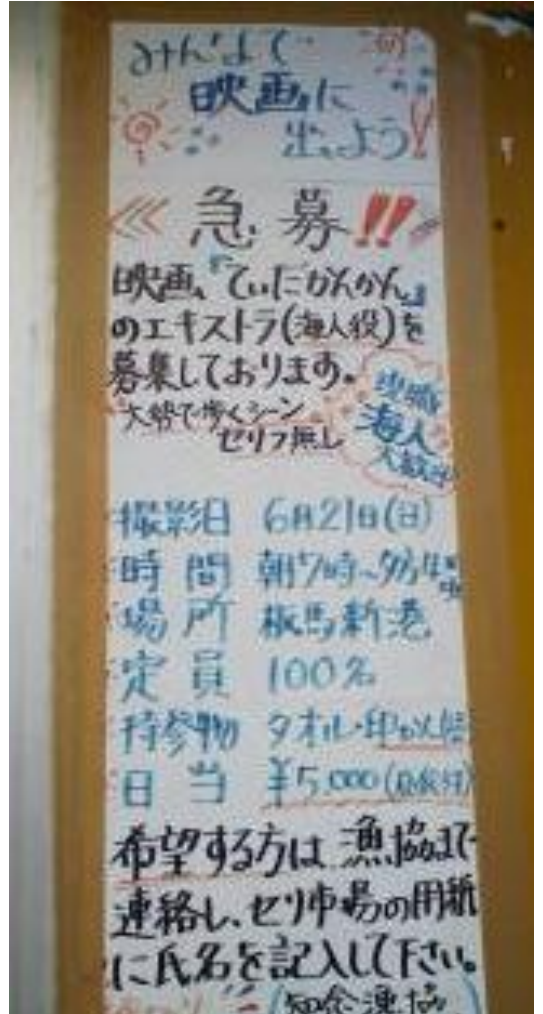


カイトセーリングに接触しそうなほ
ど近い場所
何人もが楽しんでいる

「みんなで映画に出よう」

奥武島漁協に貼られたポスター

エキストラ募集だ



トックリキワタの実

市内で、木に登って、何かを取っている方を見かけた。見ると、トックリキワタの木だ。

所望して、いただいた。



中から綿が出てくるそう
だ。原産地ではそれで綿を
作っているとのことだ。種
はとても小さく、綿にくる
まれているそうだ。

数日後、あけて見たら、
まさに綿だ。

c. 食・食事会

近所どうしの大ごちそう会

飲み会もするが、食事会をすることも多い。

近所には、料理名人がおられる。我が家の水準とはけた外れだ。この時、私たちは、畑のシマラッキョウとハウレンソウを提供するにとどまった。



刺身の飾りにモンパノキの花

我が家でもご近所夕食会をすることがある。



恵美子が、朝、思いついたらしく、我が家のベランダで、ご近所の夕食会をしようと、提案。とんとん拍子に話がすすんで、実現。例によって、持ちよりで楽しい食事。話があっちこっちしながら、ユンタクに花開く。いろいろな自慢話、困り話が盛りだくさん。フィンランド話など、いろいろな旅行話もした。

我が家ベランダの夕食会は何年かぶりだ。持ち寄り式は料理文化を豊かに

するから、とてもよい。雲がほとんどなく、4日月ぐらいを見ながら、時間がたつとさそり座をみながら。秋風はなかなかいい。ガジャン（蚊）が活躍しているのがやや困るが。これも風情だ。

右は、別の時だが、合唱団と合同でしたので、最後は合唱だ。



行列の奥武天ぷら店

行列は日常茶飯事。

現在は、おのおの特色ある3軒の天ぷら屋が奥武島にはある。



隣の90代女性からレタスをいただく

有名な働き者で元気者。

彼女は、玄関のピーンポーンは使わない。ドアをドンドンする。

他にも、我が家に野菜を提供して下さる方が何人もおられる。

規格品出荷には大きすぎるゴーヤなどは最高だ。

代わりに、私が畑でつくったものを提供できるのは、奇跡に近い。それでもないことはない、としよう。



d. 区の会議・仕事

2004年から中山に住んでいるが、区の会議にはできるかぎり出席している。話題についていけないことが多いので、発言はそれほどしていないが。

2007年3月の区総会の後で、次のメモを書いた。

中山集落の新しい息吹

集落センターの活用が提起された。土曜に開放して、子どもたちだけでなく大人たちも集い、遊び、ユンタクする場にしようということだ。ピアノ教室も開かれる。なんと無料だ。その他の企画も相談されている。人口200人の小さな集落だが、面白くなりそうだ。

総会后、懇親会があり遅くまで語り合った。私の『沖縄田舎暮らし』の本もいろいろと話題になる。「路上宴会」など、自分が出ている場面などが楽しく語られる。先日の我が家でのホームコンサートの時、美声が近隣に響いたので、驚いたとの声もあった。中山合唱団のことも話題になった。

私も調子に乗って、ハーリーやりたい、タコ取りしたい、野球・ソフトはどうかと、投げかけた。

40～50代男性が元気なので、これからが楽しみだ。活発な女性たちに負けない「文化あふれる」中山になっていくことを期待する。

市便りなどを配布する班長をする

2010年6月のことだ。日曜日に、我が家が属する3班の全戸に配布する

仕事をする。配布物は、市の便り、農協の情報誌、区長からの連絡メモなど。市の社会福祉協議会の情報誌や議会情報誌が加わることもあるが、今月はない。

班の中の輪番であたるが、24戸ある3班では、高齢者だけの家は輪番から外れるので、1年半に一回まわってくる。

各家々の表示は屋号なので、屋号を覚えなくてはならない。大体覚えたつもりだったが、一軒まちがえた。似た屋号があるものだ。〇〇という屋号があるとする、それに「前」「新」「二男」などを加えた屋号が多いからだ。我が家のように屋号のない家は氏名表示だが、同姓ばかりなので、これも難しい。

日ごろ顔なじみである場合はいいが、顔と名前（屋号）が一致しない方もかなりいる。出会った方に確認しながら配る。

いろいろな出会い・発見がある。

ヤギ・鶏がたくさんのお家。小学生の子どもが餌やりのお手伝い。

高齢者だけの世帯も多い。

日曜日なので、お子さんが町から高齢者の父母の所に来られているところもある。

収穫したキウリあげようと、声をかけてくださるお宅。

子どもだけの家だったので、「屋号は何？」と聞くと、「わからない」とのこと。そこで、じいちゃんの名前を聞く。そうすると、屋号が分かることが多い。引っ越してきたばかりで、今回はまだ配布に該当しないお家だと、近所の人に聞いてわかる。

通りすがりに屋号を教えて下さった方が、「かあちゃんが、老人は班長しなくてもいいんじゃないの、とってたけど」と話す。老人とは私のことか、と思い、ついに「老人」といわれるようになったのか、と不思議な気持ち。班長の仕事は「老人」は免除されるのかと思うが、我が家では恵美子は今年までは「老

人」ではないから、班長をする資格があるのだろう、と思う。

いずれにしても、班長の仕事は地域のことが分かる機会である。

集落センターの光発電装置設置は採算がとれるか

2009年8月末の字常会の議題の一つはこれだった。設置費用のうち、政府が700万円ほど出し、字負担は140万ほど（一戸当たり2万円）だから、設置するかどうか決めなさい、という話が舞い込んだのだ。結構議論がもりあがった。しかし、将来予測がはっきりしないので、保留ということになった。

集落センターの電気使用量は、月額で4000円ぐらいなので、光発電で余った電気は、沖縄電力に売ることになるという。この価格が流動的なようだ。設置後の維持管理にかかる費用は、字負担である。

何年もつか、ということでは、15年ということらしいが、設置台などが潮風で錆びたりすることがありうるので、はっきりはしない。かなりの重量物なので、設置の際、センター建物への影響はないのか。

などという発言があった。

確かにそうだと思う。将来にわたって、何も問題がなければ、美味しい話だろう。また、大量に電気使用がある場合にも、プラスになりやすいだろう。しかし、中山のような小集落にとっては、プラスの確証は弱い。だから、皆さん、躊躇されるのだろう。集落側から出た話ではなく、農林省から出た話のようだ。

もう一つの論議は、農道のアスファルト舗装だ。かねて集落から、側溝のついた舗装要請をだしていたとのこと。今回、側溝なしの舗装の予算が下り、着工過程に入りつつあるが、大雨のとき、水が畑に入るのはないか、という心配の声があがった。

この過程は、私にはわからないことが多かった。側溝の代わりに、ガッター

をつけるどうのこうのが論議になった。「ガッターとは何だ」、隣の方に聞いてやっとわかった。ウチナーグチ？ 英語？ どうやら土木用語らしい。

身近なことに関わる論議は盛り上がる。これは、実施の方向ですすんだ。

中山ユンタク会

これは、2009年5月に書いたことだ。

先日の字中山の総会のあとの懇親会で盛り上がった一つの話は、「中山ユンタク会」を開こうということだ。熱心に開催を訴える人もいて、私に世話をせよ、ともおっしゃる。ユンタク会をもつことには、多くの方が賛同した。そこで、先日の評議員の集まりにも話題を出したところ、またおおいに盛り立てる発言が続いた。ということで、その場に居合わせた方々と日程を調整し、次のようにもつことになった。

6月5日（金曜日）午後8時～

公民館（中山集落センター）にて

世話役 浅野誠

これだけがはっきりしていることだ。

その場に集まった人たちで今後のことを相談していこうと思う。

男女年齢にかかわらず歓迎である。

私の推理だが、こんなことも話題にのぼるだろう。

- ・子育ての悩み
- ・青年の仕事探し
- ・農業のこれから
- ・字芸能の復活
- ・

ユンタクだから、いろいろな話があっちこっちするだろう。ユンタクをきっかけに何かが芽生え・何かがおこるかもしれない。一回きりの会になるのか、継続するのも、まだわからない。

5日当日、20代から60代までが集まってもたれた会では、参加者一人ひとりが、中山のことで、思うことや提案をカードに自由に書くことから始まった。カードをテーブルの上に並べ、それをきっかけにしてユンタクの花が開いた。ユンタクだから、話はあっちこっちだ。二か月に一回ぐらいはしようということになった。

※ しかし、途絶えている。

カード一覧を紹介しよう。

交流	区民集まって意見交換	交流会に子どもを参加させる
男だけで飲まない	中山をよく知る	男と女の交流
子育ての件	男の子の性教育	10代が中山に見える
青年会	婦人会	旧村補助の婦人学級
市の放送の中身	老人会をもっと楽しくしたいです	区民旅行
アヒルを食べる	海岸ムービー大会	中山で結婚式をしよう
区民月見大会	仕事おこし	農業体験学習
農作物青空市	農業受け入れ	農作物販売

大型スピーカーによる市の放送の多用——適切か？ 乱用か？

2009年8月に書いたことだ。

今日もまた、夕方5時過ぎに、デッカイ音の市の放送があった。だんだん増

えてきて、毎日のようになってきた。健康関係の放送が多いようだ。

今日は、2件。一つは、新型インフルエンザ患者が南城市にも出た件、市職員募集の件だ。二つ目はこれまでもあった。

私の意見。この放送は、まずは災害対策の緊急情報提供が重要だ。今、台風が近づいているが、それへの適切な対処を呼び掛けるのは必要なことだ。実は、今日の定例の中山合唱団の練習は、中心メンバーがビニールハウス対策のために、中止の連絡が入ったが、こうした災害対応は必要不可欠だ。しかしながら、幸せなことに、災害対応での放送はまだ経験していない。

この全市放送システムができる以前は、集落センター放送だけで、一週間に一回あるかないかで、集落住人にとって必要なものがほとんどであった。しかし、全市放送になってからは、「これは必要なのかな」と思うものが結構多い。というより、ほぼ不要不急のものだ。職員募集などは典型だ。しかもくりかえしてやっている。

こわいのは、こう多用されると、「市の放送は重要なことはないから、うるさいだけだ」と住民が思いこんでしまうことだ。津波・土砂崩れ・台風など、本当に必要な時に、「また市の放送だ」といって、聞き逃されることがないかということだ。かつて、津波のときに、逃げないで、海岸までわざわざ見について、災害にあったという苦い経験を持つ沖縄だ。

もう一つ多用されて困っているは、コンサートなどをしている時に、「〇〇日に健康講演会があります。」という放送があった時だ。

心配なのは、聞き手の住民側の立場ではなく、市の宣伝は、住民の同意など必要なくやっていいのだ、という「お上根性」がいまだに存在していないか、ということである。

もう一つ付け足し。

しばらく前のことだ。全市放送は同時に行われるものだから、ハウリングと
いったか、専門用語は忘れたが、あちこちの放送が響き合って、かえってきき
とれず、雑音にしかならないことがあった。そのときは、思わず市に電話した。
私の電話のためかどうかわからないが、その後改善された。こうした改善する
態勢にあることを大いに評価したい。

私のすぐ隣だが、森にさえぎられて放送がほぼ聞けない隣人たちがいる。そ
れで、新たにスピーカーが設置された。だが、隣人たちは、そのことも知らな
かった。依然聞こえていないのだ。設置する時に、当事者と相談するのが常識
だろうが、それもなかった。そして、後からでもいいが、聞こえたかどうかを
当事者に確かめる作業がなされていないのだ。

とはいっても、「ハウリング」のときのように、問題を連絡するとすぐに改善
するのが、南城市のいいところだ。

もうすぐリスタート？

中山青年会

2009年5月の豊年祭には、
うれしいことに青年たちもたくさ
ん参加。

青年会リスタートを期待する。



全国募集「中山兄弟集落」 2009年5月の話。

中山は222?人の農村です。

海の前です。

静かです。

兄弟になることに興味がある時は、連絡してください。

以上の提案は、懇親会で盛り上がってでてきました。思いつきレベルの話ですが、話題になってもいいなあと思います。

中山優勝祝賀会

2009年5月、卓球で中山が南城市大会で優勝。

私も選手の一人だが、なんと優勝してしまった。前年は準優勝。

翌年以降は、ベスト4が一回あるが、小さな字のため、選手不足で欠場が多い。

中山は、バレーやバスケットも強いが、最近は優勝にまではいたっていない。ということで、盛大に! 祝賀会。



中山の評議員になる

2009年3月、私が2009年度の字評議員になる。輪番というほどではないが、ほとんどの人が一度は経験するものだ。60代二人という枠に私も入ったというわけだ。評議員の仕事もよくわかっていないので、まずは修業である。

中山評議員会は、10人ぐらいの会議なのだが、ウチナーグチ使用率80～90%。字の常会では10～20%で、ヤマトグチが80～90%。両者とも、バイリンガルだ。使い分けは自然の流れで行われる。共通語か沖縄語か、ヤマトグチかウチナーグチか、のあれかこれかではない。双方とも使うバイリンガルなのだ。

私のウチナーグチ聞き取りは、2割以下だ。固有名詞が入ると理解しやすい。でも地名になると、ウチナーグチ名を知らないところが多いので、難しくなる。

ということで、評議員会は、私のウチナーグチ学習の絶好の場になりそうだ。

私は20年余り沖縄生活をしているが、ウチナーグチ・イマージョン（ウチナーグチ漬け）になるのは、初体験同然だ。

話す方は、現在もかなりウチナー式ヤマトグチを少しはしているが、そのウチナー式ヤマトグチの域を超えて、ウチナーグチを使うは難しいようだ。

中山集落センターは、「難所」！

2009年4月の話。設置されたばかりの表示。避難所の「避」がない？！ 多分、はがれおちた





のだろう。6月には、「避難所」に直された。

関係者の皆さん、御苦労さま。

新原の津波避難場所

案内掲示板

災害予防システムが整備されはじめる。

新原は、海拔数メートル以下のところが多い。

玉城福祉センターは、丘の上だ。

そこなら、津波の心配はないだろう。東北大震災の2、3年前の話だ。

東北大震災の際には、このあたりも警報が出て、スピーカーから放送があったが、大きな波はこなかった。

中山子ども会バーベキュー

2008年の8月、いつもの海岸散歩での出会い。我が集落中山の子ども会が、海岸でバーベキュー。ご相伴に預かる。

大人がごちそうをつくって、子どもが遊ぶといった感じ。もう少し子ども



が企画を自分たちでつくって働いたほうがいいと思うが。

なぜか、私のところに来て、肩もみをしてくれる五歳の子どもがいた。うれしい。

盛り上がった中山教育懇談会

2009年6月に、「夏～秋にやりたいことアイデア大会」をする。

百近いアイデアが出て、そのなかから、

1. 親子ドッチボール・ビーチボール・ビーチパーティー
2. 親子読み聞かせ会、
3. ブイアート作り

が決まった。

親子・教師30人が集まり大盛況。

このあとの取り組みが楽しみだ。

今日の進行は、急なご指名で、私が担当した。



e. 共同作業

中山に限らず、近隣のどの字にも地域清掃の共同作業があるだろう。中山では、4月末と11月末の2回ある。70歳以上は除き、一戸につき一人の留守番役以外は、全員が参加することになっている。

その共同作業でブログ記事にしたことを並べよう。



世間話も楽しい

写真は作業の途中休憩時間風景
(2011年4月)

今朝6時から、恒例の春の共同作業。
グスクロードから海岸までの道沿いの清掃作業だ。

写真は休憩時間

作業しながら、いろいろな会話がはずむ。

会話は世間話を中心

- ・今年の寒さは、農作物の生育に半月以上の遅れ
- ・大震災で、沖縄産作物の価格は暴落。

・秋になると、事態はかわり、不足状態になるだろうが、そのころは沖縄からの出荷は少ない時期。

- ・孫が〇人になった。
- ・〇〇が、このあたりに家を建てるといいと思うが。
- ・今日は南城市の字対抗バレー大会
- 5月〇日は卓球大会
- ・通り沿いの畑の作物の出来具合の話

畑の隅のあちこちからでてくるイーチョーバー（ういきょう）の話

- ・今年のマンゴーは、花がたくさん咲いている。
- ・このあたりは、かつて馬場だった。闘牛場があったのはここだ。

私も、参加者の中では、年齢が上から3，4番目で、高齢者の部類。2時間ぐらいすると、体力不足が歴然としてくる。

ふと、こんな共同作業が何百年続いてきたのだろうか、と思う。

山上のテレビ共同アンテナ周辺

作業（2008年11月）

地形の関係で、テレビ視聴が難しく、共同アンテナが丘の上の広場に立てられている。

この周辺の広場の草薙が、私たちのグループの作業。2時間近くかける。

1メートルの高さに生えていた草などを刈る。

戦後しばらくは畑だったとのこと。

なかなかいい場所だから、なんかできそうだな、としばし会話。

南城祭が開かれているグスクロード公園に近く、途中から、会場からのスピーカーが聞こえはじめる。

このあとは、別の場所での草薙。

今年は12時と早めに終わる。





皆さんの体力に敬服 私の体力不十分発見 (2009年11月)

朝8時スタート。三つぐらいのグループに分かれて、上から海岸まで下っていく。上は、タマグスク近くの、グスクロードあたりからだ。私は、イーヌカー清掃からスタート。P42の写真にあるように、鬱蒼とした森の中だ。

草刈り機を先頭に、2~3人が鎌作業をする。見る見るうちにきれいになっていく。時々、草刈り機作業の見事さに見とれる。

12時まで続いたのだが、今回、皆さんの体力に敬服した。草刈り機の人などは、少しは途中休憩があるが、ほぼずっと働きずくめだ。

私は、2時間ぐらいはそこそこ働けたが、そのあとは、息切れ状態。

卓球で体力を少しずつつけてきたつもりだが、2時間が限度というところ。そして、体力回復に2~3日かかるのが現状だ。もう少し精進して、体力向上を図りたい。

終了後、集落センター前広場で、「御苦労さん会」

この語らいも楽しい。20代から70代までのユンタクだ。

作業の途中で、中山の歴史を発見するのも、私の楽しみの一つだ。今回は、石獅子、ガジュマル、イーヌカーとの出会いがあった。

朝の共同作業（2007年4月）

小雨の中、朝6時スタート。雨合羽を着ずに出かけた。もともと持っていないのだ。ある方が貸してくれる。そのうち、買いに行かなくてはならないと思う。

いつものことながら、作業は手早い。合間にユンタクをはさんではいるが。近くで作業している人が、ヒメハブを発見。ここで初めて作業に参加した折、服装の『指導』を受けた。長ズボン長シャツ長靴が基本だ。ハブ対策もある。

参加したての頃は、大変な作業と感じたが、大変には変わらないが、こんなものだと、慣れては来た。



f. 行事

ジーハンタ

中山集落の最大の行事は、四年に一度の中山ジーハンタだ。中山の始祖にかかわる。

集落の山側にあるジーハンタ（土地の端の崖という意味）で行われる。写真は、2010年10月開催のもの

右の写真は、準備作業中



最初に、祖先の墓への祈り。





祖先へのささげもの

捧げものは、豚・鶏をはじめとして、実に多種の食がそろえられる。



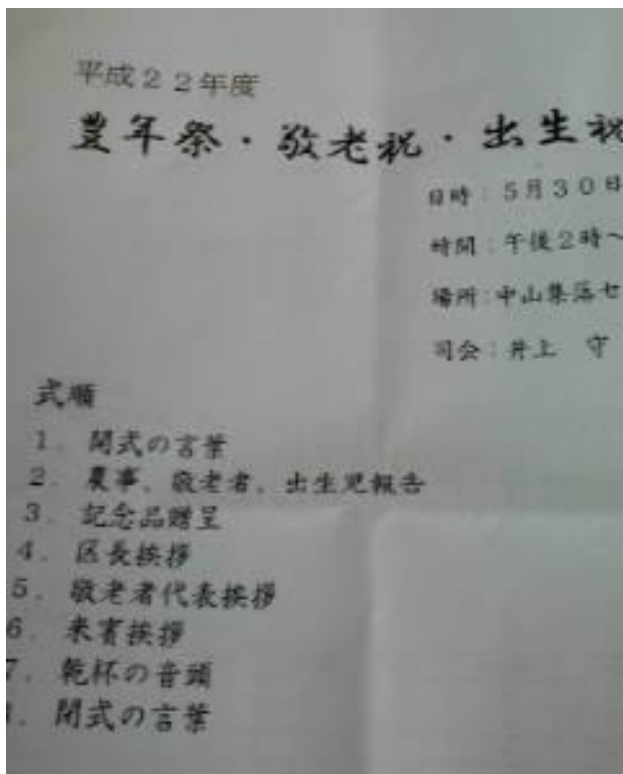
祈りの後、区長の挨拶

その後は、出し物

旗頭



女性と子どもによるエイサー



毎年、5月末に開かれる**豊年祭**

中山の一年間で最大の行事は、豊年祭。豊年祭と敬老祝いと出生祝いを兼ねる形が30年ほど続いているそうだ。こういう形は市内でも珍しいということだ。

もちろん、区民総出で、那覇などで生活している字出身者も集まる。前半は、挨拶など祝賀式的なものがあり、後半は出しものだ。

女性会、子ども会、合唱・ピアノなどが、住民によって披露され、最後に字外のプロの方による踊りや民謡の披露がある。

写真は、余興の一つとして、隣人と私の二人でやったコント「ウチナーグチ」。なかなか受ける。何十回もの特訓練習の成果。衣装は隣人のアイデア。

私にとって、お笑い出演は、50年近くぶりだ。





中山子供会の踊り

最後はなんととってもカチャーシー



綱引き

7月から8月にかけて、旧暦で決められた日に行われる。近隣の字はだいたい同じころに開く。何百年もつながってきた行事だろう。

参加者が減ってきているといわれるが、それでも住民の3人に一人は集まる。

旧玉城村は、集落単位でしているが、以前は、国道でやったそうだ。

稲作をしていた時代、数十年前は、広場で稲藁でつくっていたとのこと。

今は穏やかに楽しくやっているが、かつては東西に分かれて真剣勝負だったとのこと。負けると、先輩から「鉄拳制裁」まであったらしい。



ある年は、子どもが、集落の子どもの数よりも多い感じ。夏休みなので、集落外の人たちも来ている。

子どもたちが、4本の高い灯籠を掲げている。

「チリンドゥーロー」というのだそうだ。

鐘太鼓で盛り上げ



引き合い本番

中山音楽の夕

ここ数年の定番。12月のクリスマス時期に、子どもたちのピアノと大人たちの合唱で構成

写真は、子ども達の練習風景



ピアノ演奏が終わって、子どもたち全員で挨拶して、クラッカーを鳴らし、会場を盛り上げる。





最後に、会場をまじえての全員合唱『聖しこの夜』をキャンドルサービスでするのが定番になっている。写真は舞台上の中山合唱団。この年は臨時メンバーも参加。

音楽終了後は、ミニパーティ



g. 自然・景観

中山は、海岸から丘の上のグスクロード、さらには琉球ゴルフ場までの広い空間を占めている。

そこには、多様な自然景観がある。

右の写真は、中山の拝所の一つを包み込む

大木だ。岩を包み込み、割っている。

台風のと看、岩もろとも落ちるのではないか、との心配の声。中山には、こうした岩、大木が多い。



下は、**イーヌカー**=上の井である。字共同作業のスタート地点の一つだ。鬱蒼とした森のなかにあり、かつての水源ということだ。



丘の上から、中山区を通して海まで流れる川（カー）は5本ある。その名前を教えてもらった。いろいろな地図を見ても、その名前は書かれていない。若い世代には名前を知らない人も結構いそうだ。

東から順に書いておこう。

ユタガー

ビンガー（我がビンガー通り会はこの名前からとった）

ターガー
シンガー
ガルガー



ガルガーの滝

一番西のガルガーは、グスクロード公園あたりから流れてきて、国道の下を通るあたりでは、滝になる。

ちょっとした散策路があるが、散策する人を見たことはない。

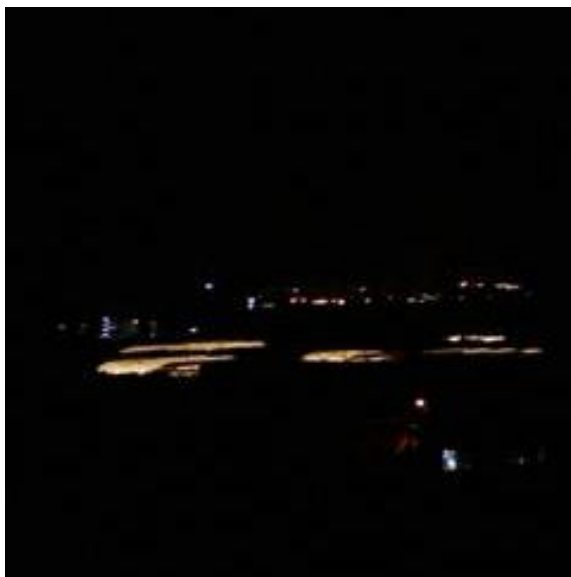
南城市に他に滝があるかどうかは知らない。あれば、ここが1、2を争う滝だろう。



すこしぐらいは名物になってもよさそうだが、地元の人でも知る人は少ない。

左の写真は遠景で、上の橋が、国道331バイパスだ。

アクセスは、字中山の農道から、または、奥武島入り口の信号交差点から奥武方向に数百メートル行って、左折し、農道に入る。いずれも、地元の人に尋ねていかないと、たどりつくのは困難だろう。



左の写真は、中山の**畑の夜景**。明りは、菊のビニールハウスだ。夜 11 時からの安価な夜間電力を活用している。

我が家ベランダから写す。

ガジュマルの美しい屋根。

近所で



中山海岸

最近、砂がたまって、砂浜が広がった。

h. 石獅子

南部各地には、石獅子がある。歴史的な遺跡でもある。八重瀬の富盛大獅子は有名だが、集落の中に4つもある中山のようなところは少ない。

皆、集落の入り口で、集落の外にむかっている。

右は、我が家から数十mのところにあるシーサー。昔からある階段道の脇だ。



左は、近年の集落移動によって、現在は集落内にあるが、かつては集落の端だったという。

いずれも、100年、200年の歴史があるようだ。



集落の東端に近い所に
ある。

集落内にある。



他の集落にもある。

知念**具志堅**の石シーサー

知念大川の近く

かなり大きい。



百名の石獅子

百名の西端の交差点脇に鎮座

最近、ここに移動された。